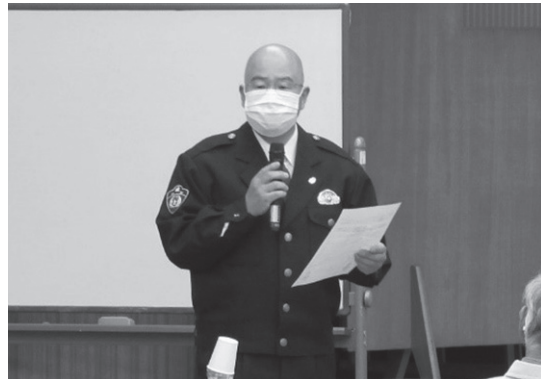


町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

人とのつながりで、被害防止を

▼第5回おしどり学園



▲人とのつながり、きずなが大切だと佐蔵さん

たことを紹介。大企業の〇〇ファイナンスという名をかたって「未納金がある」とメールが届き、電子マネーを購入して、ID番号を教えるように誘導されたというものです。

身近で発生している詐欺被害の実話と現実、学園生は驚いた様子でした。

1月15日、第5回おしどり学園を開きました。今回は、「防犯について」と題して、黒坂警察署根雨駐在所警部補の佐蔵直樹さんが講演を行いました。佐蔵さんははじめに、黒坂警察署管内で電子マネーの詐欺被害が発生し

と、被害防止の対応を説明しました。佐蔵さんは、「犯人に連絡を取る前に、ひとりで悩まないで、ぜひ身近な人に相談をしてください。警察、消費生活センター、役場などに遠慮することなく連絡をして相談し、被害に遭わないようにしてください」と、被害防止の対応を説

明しました。

また、佐蔵さんは警察官として勤続40年。その長年の経験の中から、阪神・淡路大震災と、東日本大震災の被災地に派遣された体験談を話しました。

甚大な被害が出た被災地をパトロールしたり、避難所での立ち寄り警戒などの様子を、当時を振り返りながら説明。「これだけの大規模な震災となると、警察や消防、自衛隊にしても、体制を組んで大人数を送り込むには時間がかかり、すぐには対応できない。そういう時こそ、ご近所や地域での協力や、助け合いが必要。日ごろから人とのつながり、きずなを持つことが大切です」と、佐蔵さんは語りました。

学園生は、被災地の現場写真を見ながら、日ごろからの「おつきあい」や「地域のつながり」が大事であることを再認識した講演となりました。

地域に広がる学習活動

▼黒坂6区自治会で出前公民館

「ペーパークラフト教室」

折り紙で玉手箱を折ろう

1月18日、黒坂6区集会所で、出前公民館「ペーパークラフト教室」を開きました。講師は、町公民館の柿本史子職員が担当。折り紙を使って、美しい柄の「玉手箱」を折りました。

最初は折り図を見ながら折っていましたが、次第に慣れ、折り図を見ることなく上手に折れるようになっていました。箱の組み立ては少し難しかったようですが、講師の指導のもと、美しい見事な箱が出来上がり、完成の笑顔に包まれていました。

参加者完成の「玉手箱」が、美しい玉手箱が、挑戦の美しい紙の力を引き出した。



公民館ロビー展示作品の紹介

1. 大山の森と樹木

展示期間：2月8日（月）～3月下旬

公民館1階ロビーでは、「大山の森と樹木」のパネル展を開催しています。大山に広がる「森林の種類」「森林のはたらき」、昨年大被害のあったナラ枯れなどの「森林の荒廃」、ブナ・ミズナラ・キャラボク・ミヤマハンノキなどの森林を構成する樹木についての説明などを、詳しくパネル展示しています。



▲ナラ枯れによる森林の荒廃
▲大山地域の巨樹

大山地域の森林の樹種

大山地域の森林は、標高350～1400mと標高差が1000m以上もあるため様々な樹種が生育しています。低標高地にはコナラやクリなどの落葉広葉樹が多く、その中にシラカシやヤブツバキなどの常緑広葉樹が混生しています。標高700m以上になると高木の常緑広葉樹はなくなり、ブナやミズナラが多くなりその中にシデやカエデの仲間が混生しています。

渓流沿いには、トチノキやサウグルミが生育し、河原にはハンノキやヤナギの仲間などのバイオニア植物（先駆植物）が多く生育しています。標高1400m以上になると、高木からヤマナギやナナカマドなどの低木に代わり、山頂付近ではキャラボクが出現します。山頂部や岩場では、低温や強風に耐えることができるツツジ科の小低木類が多く生育しています。

▲大山地域の森林の樹種

また、大山に生息する「ブナの仲間」「サクラの仲間」「カエデの仲間」、巨樹や樹木に着生、寄生するヤドリギなどの仲間についてなど、大山の魅力が満載のパネル展示です。
なお、この展示会は、県立大山自然歴史館との共催で行います。



2. 南極の世界 展示中～

おしどり学園の一般講座の講演内容は、2月19日「南極観測～自然と生物の生態～」(島根大学教育学部教授 大谷修司さん)、3月25日「南極観測～越冬隊員の生活と健康～」(鳥取大学国際乾燥地研究教育機構准教授・医師 大谷眞二さん)と、2回にわたって南極の生物の生態や極地での生活の様子についてなど、南極観測隊員としての体験をもとにお話をさせていただきます。
現在、その予備学習として1階ロビーの壁面に「南極の世界」を展示しています。ぜひご覧ください。

公民館図書館のお宝紹介《第3弾》 ～貴重本を手にとってみませんか～

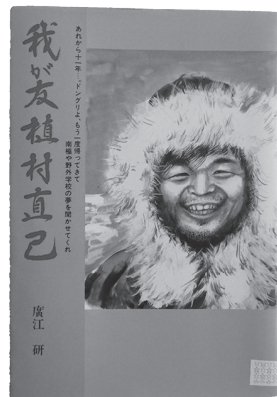


植村直己 著
1984年発行
株式会社文芸春秋

『エベレストを越えて』

世界的な登山家で冒険家の植村直己が、世界最高峰エベレスト登頂に挑戦し続けてきた12年間の様子や思いを、詳細かつ克明に書きつづった一書です。

北極点への到達を皮切りに「地球第3の極点」と呼ばれるエベレスト登頂を成し遂げ、いよいよ念願の南極点到達に向けて、夢を広げ計画を始めた植村の今後の動向は…。



廣江 研 著
昭和61年5月12日発行
立花書院

『我が友 植村直己』

世界的な登山家で冒険家の植村直己は、「エベレスト登頂」「世界初の五大洲最高峰登頂者」「北極点犬ぞり単独行」など、さまざまな偉業を成し遂げます。次は夢の「南極大陸犬ぞり走破」を計画しますが、昭和59年、43歳の若さで「マッキンリー冬期単独登頂」後に、行方不明となります。

明治大学山岳部仲間であり親友の廣江研(米子市在住)が、追悼の意を込めて書きつづった一書です。